

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 40 ヒメカンゾウ ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

ヒメカンゾウは、ニッコウキスゲによく似たツルボラン科ワスレグサ属の宿根草です。ヒメカンゾウは高さ40cm程度と小型で、花茎は斜めに伸び葉の高さを越えることはありません(写真1)。5月初旬から開花します。ヒメカンゾウは、まず、外側の3枚の花びらを開きながら内側の3枚の花びらを開いてゆきます。外側の花びらの裏だけが紫褐色で、表は黄橙色です。内側の3枚の花びらは表も裏も黄橙色です。そして内側の花びらの幅は外側よりも少しだけ広くなります。真上から見ると黄橙色、横から見ると黄橙色の花びらが交互に重なり合います。元気をもらえる花の色なのですが、開花すると翌日にはしぼんでしまう一日花です。



写真1 ヒメカンゾウの花。5月中旬。日当たりを好む。太陽に照らされると花びらは黄金色に輝く。

ヒメカンゾウの芽出しは、3月初旬です。緑色の平べったい三角のツノのようなものが地面からたくさん突き出てきます。しばらくすると、外側に湾曲した2枚の葉が現れ、翌日には3枚になり、4枚、5枚と増えてゆきます。まるで着物の衿のように互い違いに重なっているように見えます。葉がひしめき合ってくる4月中旬になると、その中から緑色の蕾を持った茎が、葉に守られながら出てきます。やがて緑色だった蕾は、太陽の光をたくさん浴びて茶紫色に染まりふくらんでゆきます。最初の蕾が開花すると、翌日にはしぼみ、2つ目の蕾が開花するのに十分大きくなっていれば、その翌日に開花します(写真2・3)。不思議なことに、2つ目以降の花は最初に咲いた花よりも少し小さくなるようです。一番花には、かなりの

エネルギーがそそがれているのかもしれませんが。



写真2 ヒメカンゾウの一番花が開花。5月中旬。



写真3 写真2の翌日の様子。一番花はしぼみ次の蕾が開花。

1株のヒメカンゾウからたくさん花茎が立ち上がって開花しますが、1本の花茎に2つから4つほどの蕾しかつけないため、見ごろはほんの数日しかありません。一番花が咲いて10日程過ぎた頃には花の姿はあとかたもなくなり、葉だけが残されます(写真4)。これは、しぼんだ花が花の付け根からポトリと落ちてゆき、花茎だけになるからです。花が終わった後の姿を長く残さないヒメカンゾウに、散り際の美学を感じてしまいます。



写真4 5月下旬。ヒメカンゾウの葉。ゲンペイコギクが葉の周りを囲んで咲く。



写真5 9月初旬。ヒメカンゾウの枯れ葉はゲンペイコギクに隠される。

おすすめの組み合わせは、ゲンペイコギクです。ゲンペイコギクは、ヒメカンゾウの花の後を追うように咲いてくれます(写真4)。

8月になるとヒメカンゾウの葉が枯れ、空いたところは常緑のゲンペイコギクが隠してゆきます(写真5)。